

建設地	： 愛媛県松山市	竣工	： 平成 31 年 1 月	敷地面積	： 204.11 ㎡
地域区分	： 6 地域	用途	： 専用住宅	延床面積	： 117.53 ㎡
設計者	： 野の草 設計室	構造・階数	： 木造軸組・地上 2 階	建築面積	： 82.32 ㎡

■提案の概要

- 西側が河川に面し、西風が卓越風であるという地形・風向特性に配慮し、西側に主開口を配置。深い軒庇と窓から離れた位置への簾の設置、落葉樹の植樹と合わせて、低い高度から侵入する日射熱の遮蔽と通風の取得を両立している。
また、建設地の夏期の蒸暑な気候に配慮し、吸放湿しやすく容易な点検が見込める内部真壁・外部一部真壁の土塗壁・構造体現し、通気・乾燥が見込める開放的な床下工法（石場建て）、屋根下地材への杉皮の利用等により、長寿命化にも配慮している。
極寒ではない冬期の気候に対しては、引き戸を利用して部屋を区切って使う住まい方、畳の間での床座の暮らしも提案している。
- 地域の気候風土に応じた木造建築の要素技術については、小屋組み現しかつ野地板現し、面戸板現し、地場で製作される木製建具、土間を採用している。土間については、伝統的な土間のある暮らし、おもてなしや近隣との付き合い方等を再構築すべく、伝統的技法による三和土の土間空間を構成していることが特徴的である。
- 現行の省エネ基準では評価が難しい環境負荷低減に寄与する対策については、建物や外部環境による対策、暮らし方による対策、地域生産等による工夫等、幅広い対策が講じられている。特に、地元職人の多用、自然乾燥材や杉皮の使用等、伝統工法や土着の良さを最大限活かそうという取り組みがなされている。



地域で産出される材料（木材・石材・土・植栽）を活かした外観



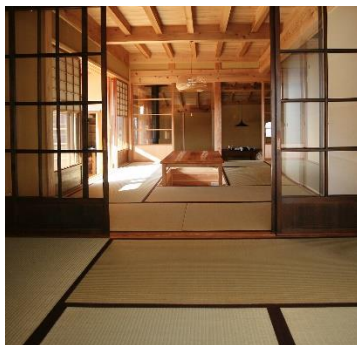
河川に面した眺望を楽しむ開放的な空間と大開口



家族の食事や団らん、地域の人との交流ができる豊かな土間空間

□続き間

奥の間、茶の間の2室が和室の続き間。
さらに土間も含め3室が続き間。



続き間

深い軒・庇

□深い軒・庇

軒の出：1階主開口部上2,183mm
2階 1,165mm



□多層構成の建具

木製ガラス戸、内障子、施錠可能な網戸、
木格子の組み合わせとなっている。



多層構成の建具

土塗壁

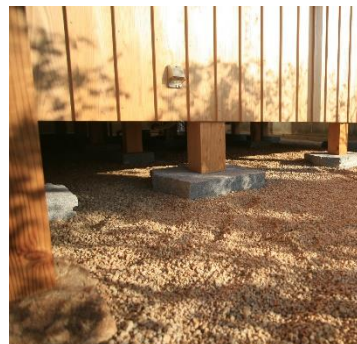
□土塗壁

藁が繊維になるほど寝かせた熟成土を使用
している。
竹摺下地、竹小舞下地が使われている。



□開放的な床下（石場建て）

通気・乾燥が見込める開放的な床下工法と
している。



石場建て

土間空間（三和土）

□土間

台所とダイニングが三和土80mmの土間空間
となっている。



□木製建具と畳（藁床の本畳）

地場の木製建具が使われている。
藁床を使用した本畳が使用されている。



木製建具と畳（藁床の本畳）



古材・リサイクル材の利用

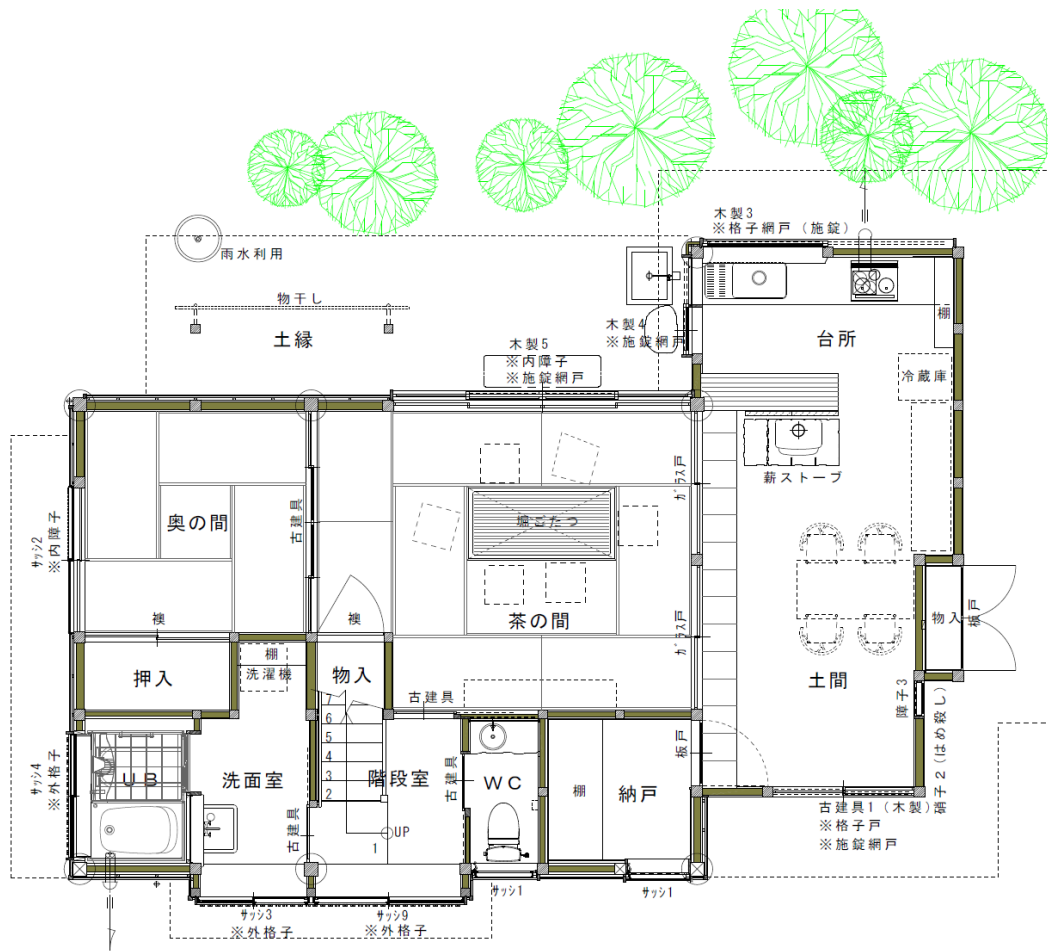
□古材・リサイクル材の利用

古建具が再利用されている。

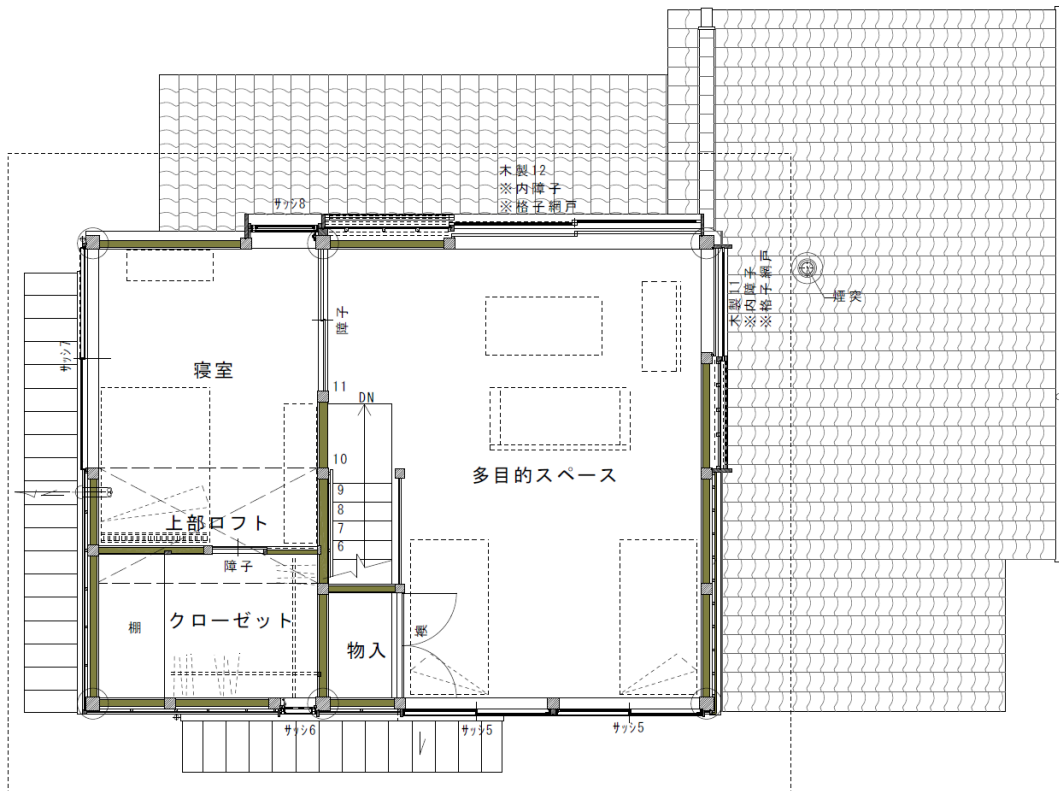


■エネルギー性能（採択時）

項目	基準値	設計値
評価方法	Webプログラム 気候風土適応住宅版による評価	
地域区分	6地域（愛媛県松山市）	
外皮平均熱貫流率（ U_A 値）	0.87以下	1.81 W/($m^2 \cdot K$)
一次エネルギー消費量	118.7以下	112.9 GJ/(戸・年)
一次エネルギー消費性能（BEI）	1.0以下	0.94



1階平面図



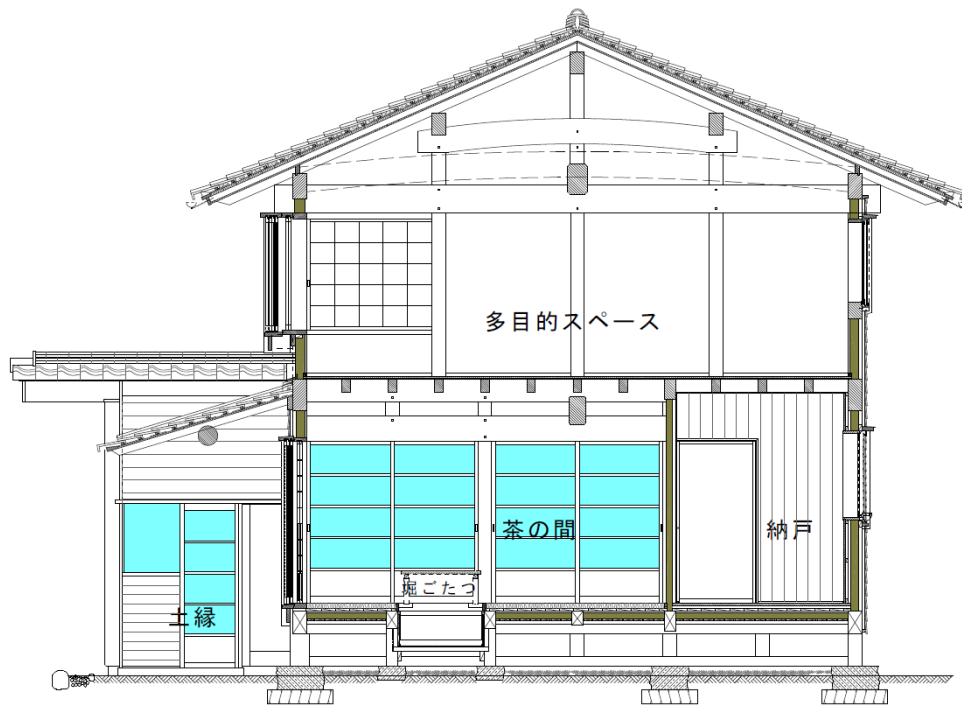
2階平面図



北側立面図



西側立面図



矩計図

■お施主様の声

家を建てるなら、時間とともに深みが増していくような家が良いと思い、雑誌で野の草さん設計の家の写真を見て、ここしかない、と思い依頼しました。

家づくりの様々な段階に参加させてもらい、ヨイトマケの地固め、礎石並べと表面のハツリ、竹小舞かきと土壁塗りなどを行いました。これによって、この家の中で、見えないところも含めて、知らないところはないと言えるくらい、何かあっても自分で対応できると考えています。

季節の移り変わりを大切に暮らしていきたいと考えており、大きな窓からの風景や風通しなど、心地よく暮らしています。土間空間は、主な生活がすべてできるくらい便利で、新しさの中にも懐かしさがあり、子供たちにとっての原体験になればいいな、と思っています。

■設計者の声

設計にあたっては、お施主様にいろいろなものを見ていただき、知っていただくことで、お施主様の引き出しをつくっていただくようにしています。例えば、木材のこと、どういう造りにしたいのか（構工法、断熱性など）、伝統工法のメリットやデメリット、暮らし方、コストなどです。それによって、お施主様の要望についてもご自身で優先順位をつけていただけるようになるためです。

今回は、和の暮らし、畳のある床座の暮らしという考え方が一番落ち着くと考えました。

打合せを重ねる中で、お施主様の気持ちがおおらかに変化していくのを感じました。畳などが持つ素材感や土壁が乾燥するのを待つゆるやかな時間が、土壁が熟成するようにお施主様もじっくり熟成されて変わっていくように感じています。